

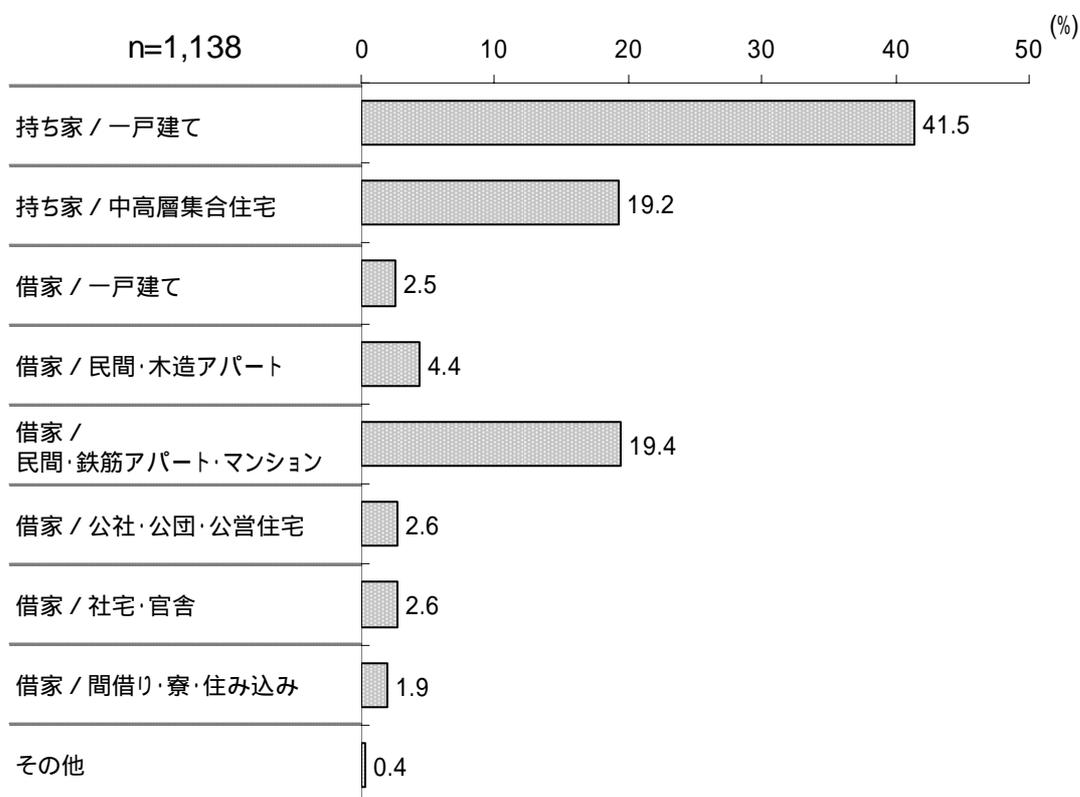
2 . 防災対策

調査期間は平成 23 年 1 月であり、東北地方太平洋沖地震発生前でした。

(1) 住宅の種類

(全員の方に)

F 4 . お宅の住宅の種類は、この中のどれでしょうか。(1 つだけ)

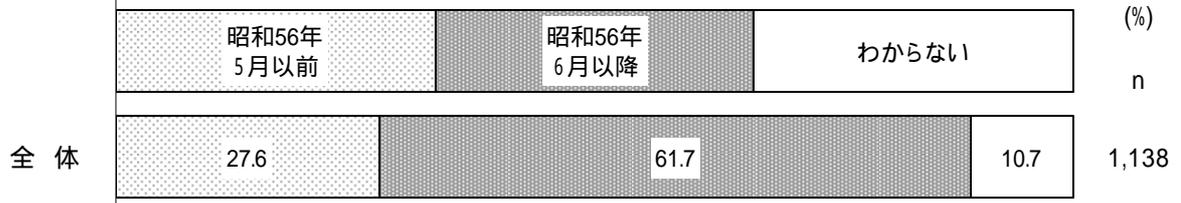


- ・ 全体で見ると、「持ち家 / 一戸建て」(41.5%) が 4 割を超え最も高く、次いで「借家 / 民間・鉄筋アパート・マンション」(19.4%)、「持ち家 / 中高層集合住宅」(19.2%) の順となっている。

(2) 現住居の建築時期

(全員の方に)

問3. あなたがお住まいの建物は、いつ建てられたものですか。(1つだけ)

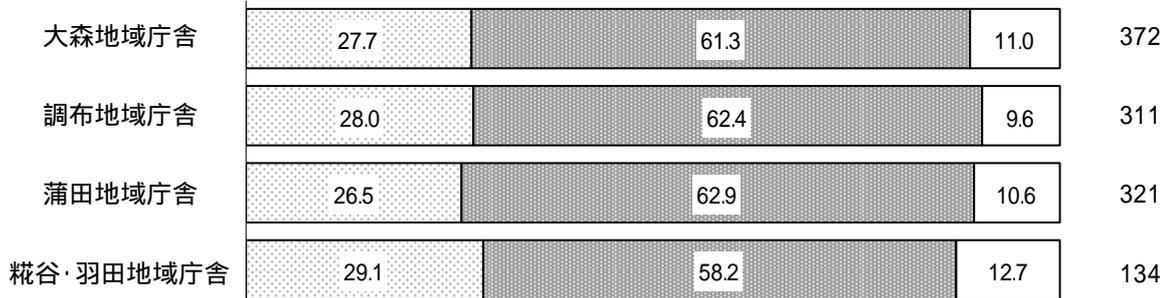


- 全体でみると、「昭和56年5月以前」(27.6%)の新耐震基準以前の建物に住んでいる人は3割弱となっている。「昭和56年6月以降」(61.7%)の新耐震基準による建物に住んでいる人は6割を超え、「わからない」(10.7%)は1割を超えている。

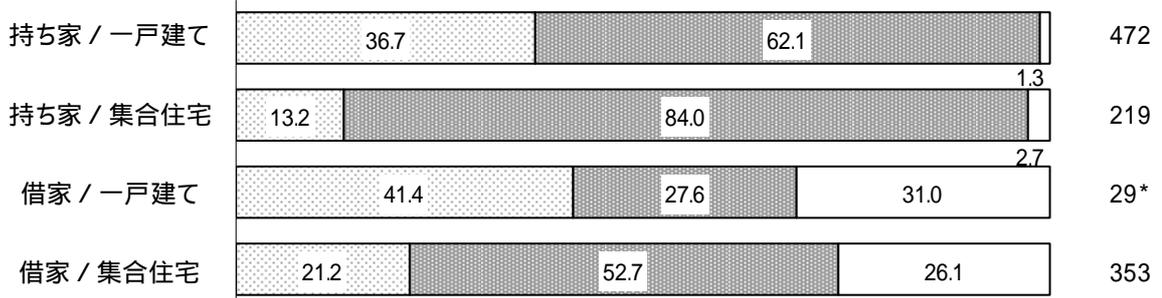
[現住居の建築時期 - 地域庁舎管内別、住居形態別]



[地域庁舎管内別]



[住居形態別]

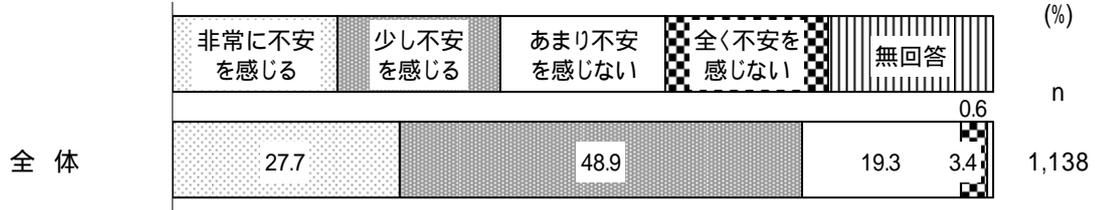


- 地域庁舎管内別にみると、「昭和56年5月以前」の新耐震基準以前の建物に住んでいる人は、糀谷・羽田地域庁舎(29.1%)で最も高く、次いで調布地域庁舎(28.0%)、大森地域庁舎(27.7%)の順となっている。
- 住居形態別にみると、「昭和56年5月以前」の新耐震基準以前の建物に住んでいる人は、「借家一戸建て」(41.4%)で4割を超え、「持ち家一戸建て」(36.7%)でも3割半ばとなっている。また、「わからない」は「借家一戸建て」(31.0%)で3割を超えている。

(3) 大地震発生時の現住居倒壊に対する不安感

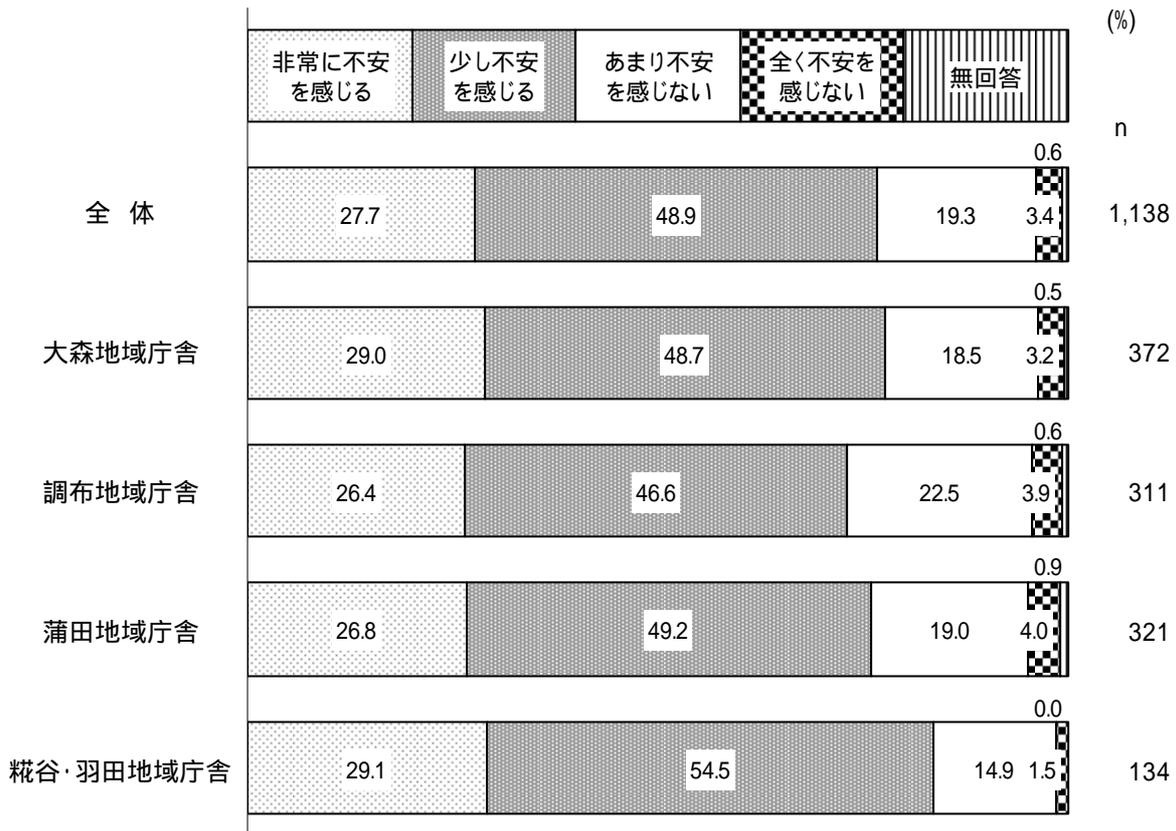
(全員の方に)

問4. もし阪神・淡路大震災なみの大地震が起きたら、あなたがお住まいの建物は倒壊するかもしれないという不安がありますか。(1つだけ)



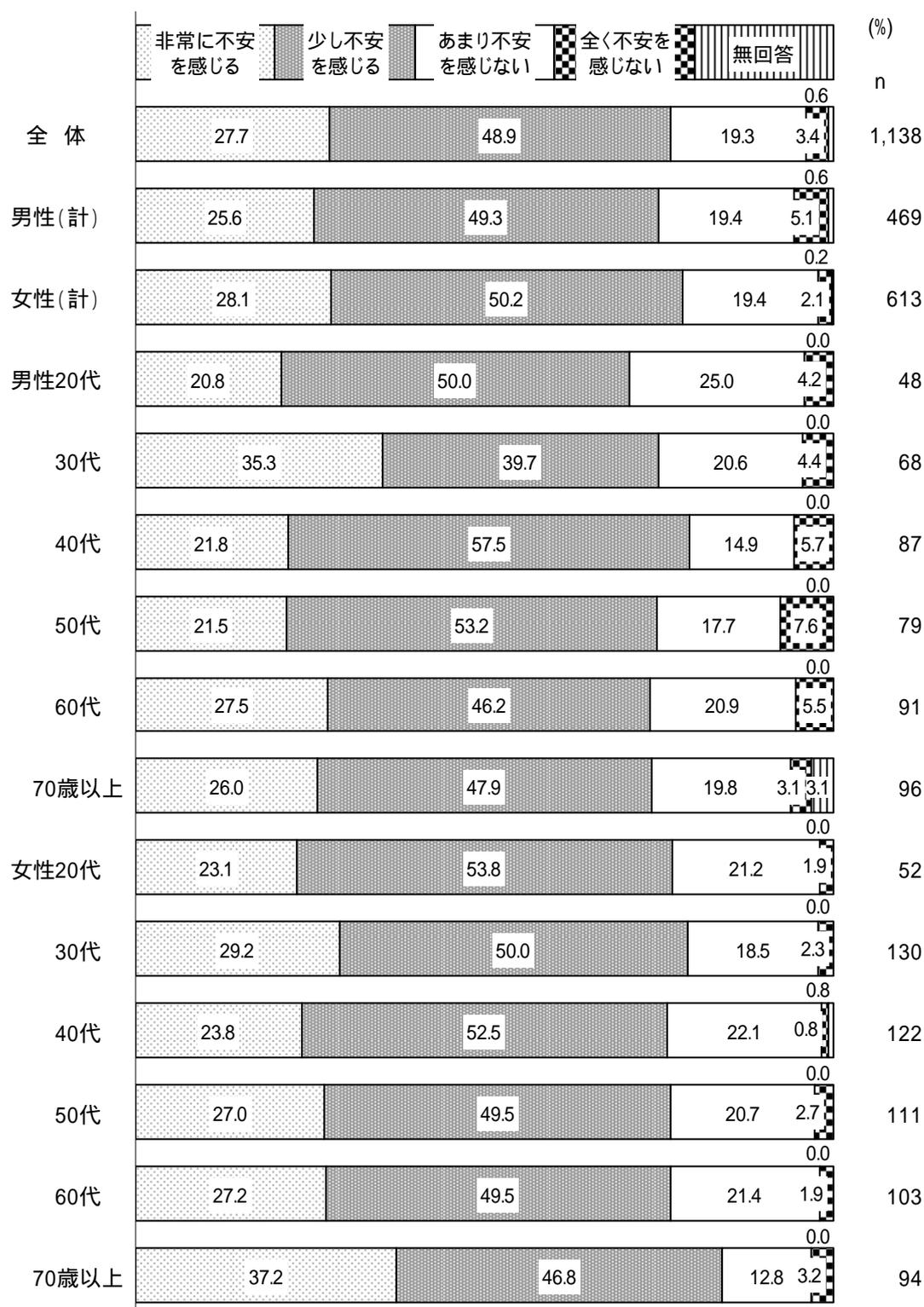
- 全体でみると、「非常に不安を感じる」(27.7%)が3割弱、「少し不安を感じる」(48.9%)が5割弱となっており、この2つを合わせた『不安を感じる(計)』(76.6%)は8割近くとなっている。「あまり不安を感じない」(19.3%)と「全く不安を感じない」(3.4%)を合わせた『不安を感じない(計)』(22.7%)は2割強となっている。

[大地震発生時の現住居倒壊に対する不安感 - 地域庁舎管内別]



- 地域庁舎管内別にみると、「非常に不安を感じる」では大森地域庁舎と糺谷・羽田地域庁舎で3割近くとなっている。『不安を感じる(計)』では糺谷・羽田地域庁舎で8割を超えている。

[大地震発生時の現住居倒壊に対する不安感 - 性 / 年代別]

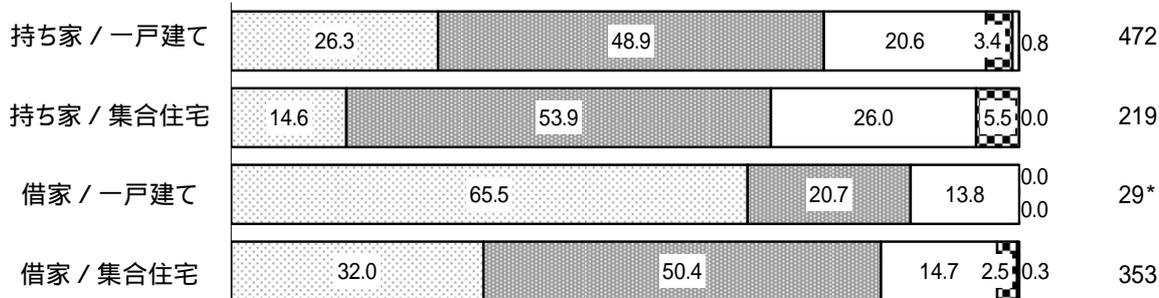


- ・ 性別にみると、男女間で大きな差はみられない。
- ・ 性 / 年代別にみると、「非常に不安を感じる」は男性 30 代と女性 70 歳以上で 3 割半ばを超えている。

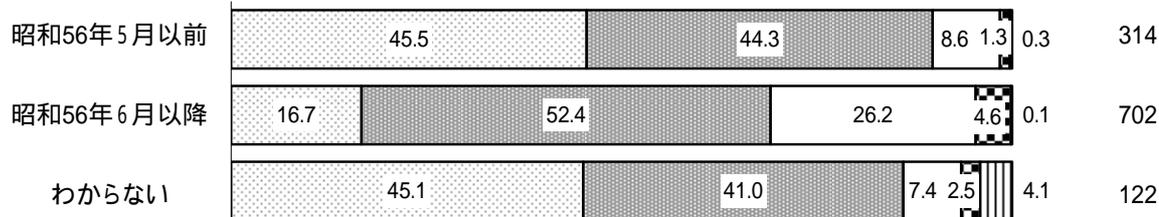
[大地震発生時の現住居倒壊に対する不安感 - 住居形態別、現住居の建築時期別]



【 住居形態別 】



【 現住居の建築時期別 】

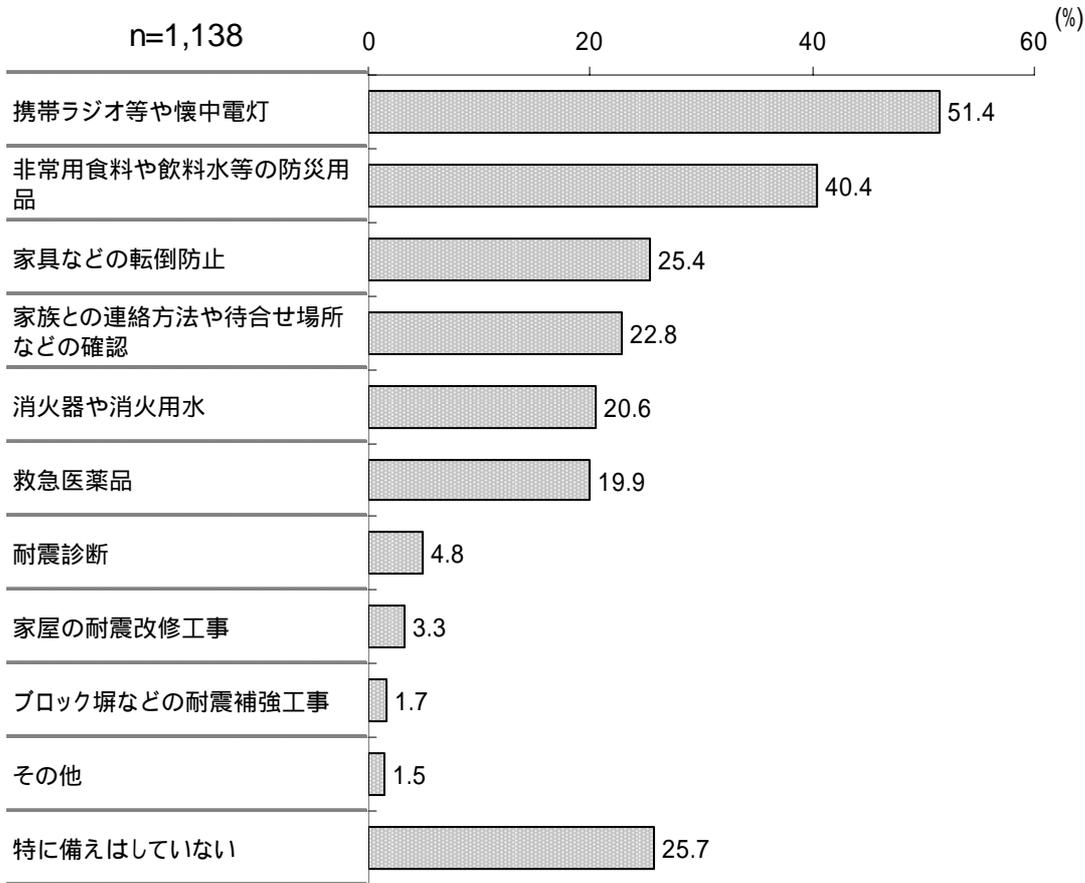


- ・ 住居形態別にみると、「非常に不安を感じる」は借家の一戸建てで6割半ばと特に高くなっている。
- ・ 現住居の建築時期別にみると、「非常に不安を感じる」では昭和56年5月以前の耐震基準以前の建物に住んでいる人で4割半ばとなっており、昭和56年6月以降の耐震基準による建物に住んでいる人と比べて28.8ポイント高くなっている。また、建築時期がわからない人でも4割半ばと高くなっている。

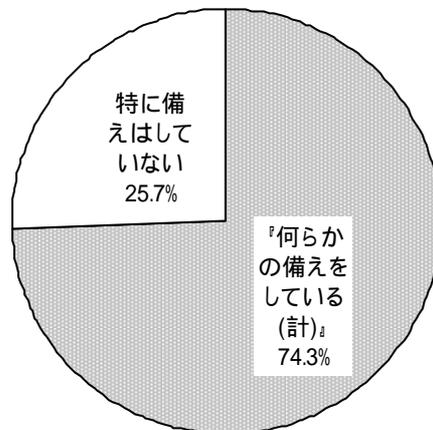
(4) 震災対策の実施状況

(全員の方に)

問5. あなたのご家庭では、大地震に対してどのような備えをしていますか。(いくつでも)



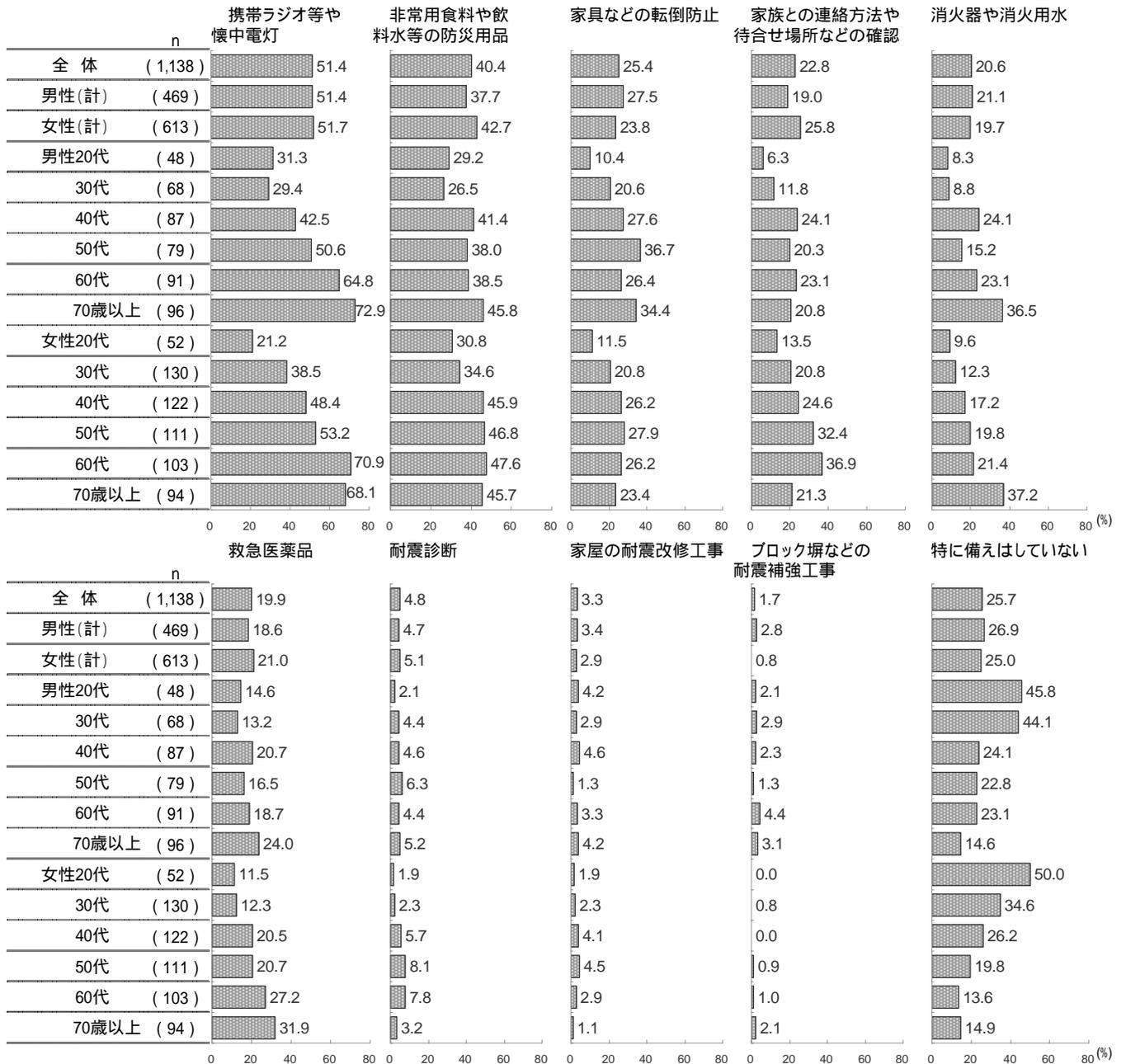
- 全体でみると、「携帯ラジオ等や懐中電灯」(51.4%)が5割を超え最も高く、次いで「非常用食料や飲料水等の防災用品」(40.4%)、「家具などの転倒防止」(25.4%)、「家族との連絡方法や待合せ場所などの確認」(22.8%)、「消火器や消火用水」(20.6%)、「救急医薬品」(19.9%)の順となっている。



n=1,138

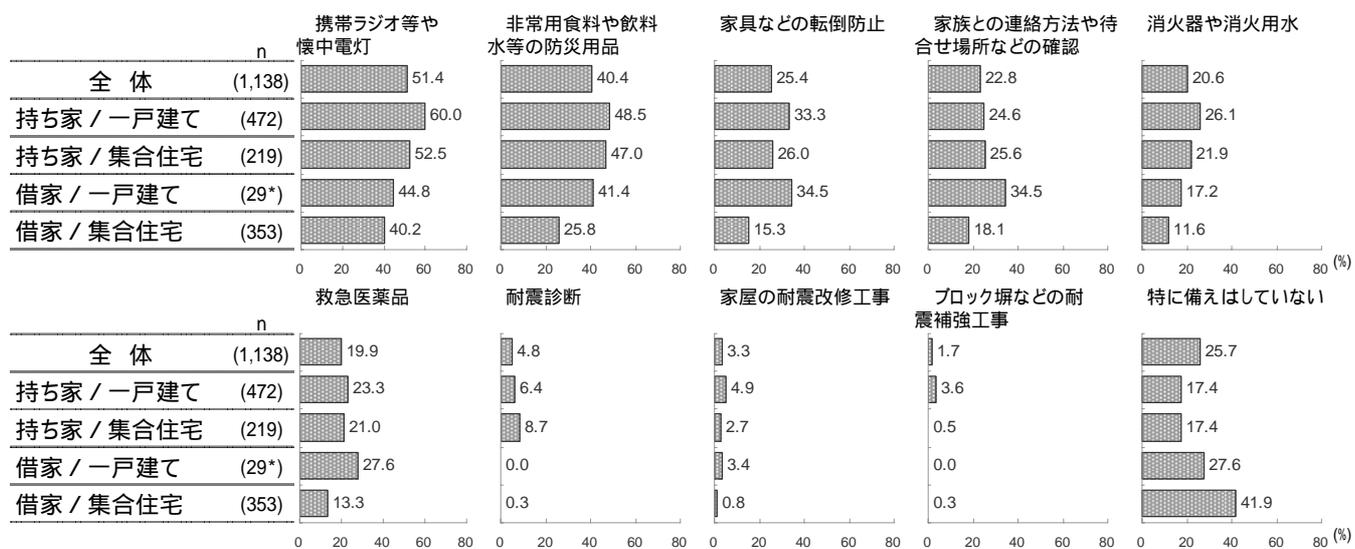
- 大地震に対して備えていることを合わせた『何らかの備えをしている(計)』(74.3%)は7割を超えている。

[震災対策の実施状況 - 性 / 年代別 (上位 10 項目)]



- ・ 性別にみると、「非常用食料や飲料水等の防災用品」「家族との連絡方法や待合せ場所などの確認」では女性が男性より 5.0 ポイント以上高くなっている。
- ・ 性 / 年代別にみると、「携帯ラジオ等や懐中電灯」では男女とも 60 代、70 歳以上で 7 割前後と他の年代と比べて高く、男女とも高い年代ほど割合が高くなっている。「非常用食料や飲料水等の防災用品」では男女とも 40 代以上で 4 割前後となっている。

[震災対策の実施状況 - 住居形態別 (上位 10 項目)]

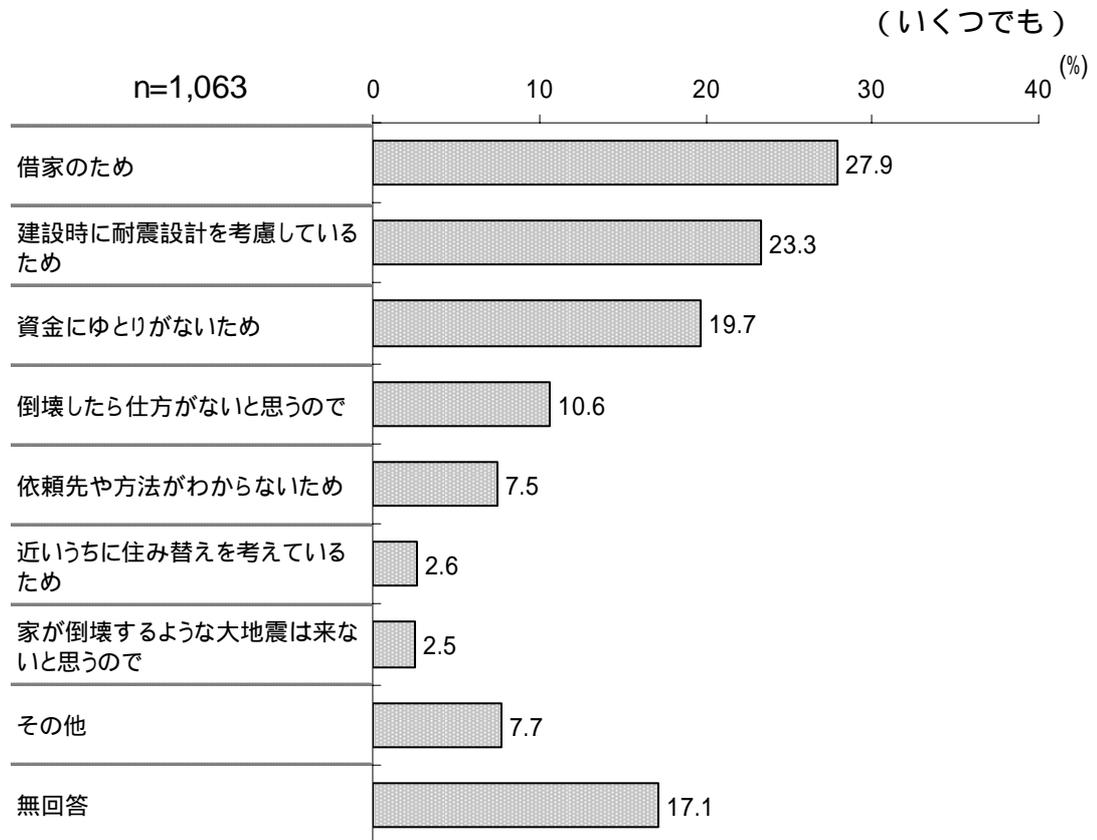


- ・ 住居形態別にみると、「携帯ラジオ等や懐中電灯」では持ち家の一戸建てに住んでいる人で6割となっており、「非常用食料や飲料水等の防災用品」では持ち家に住んでいる人で5割近くとなっている。

(5) 耐震診断や耐震改修工事を行っていない理由

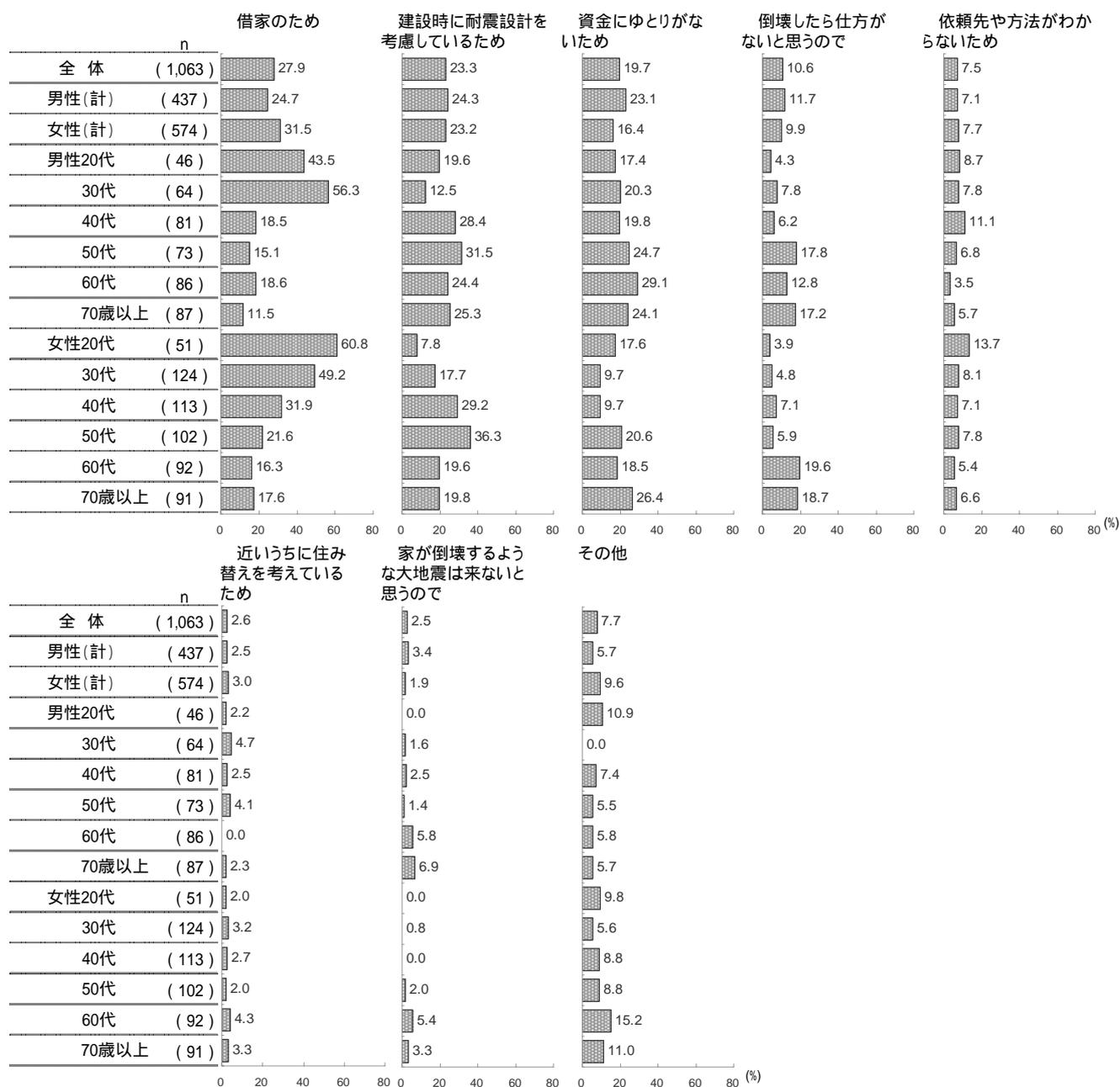
(問5で「5 耐震診断」と「6 家屋の耐震改修工事」のいずれにも回答しなかった方)

問5 - 2 . あなたのご家庭で、耐震診断や耐震改修工事をしていない理由は何ですか。



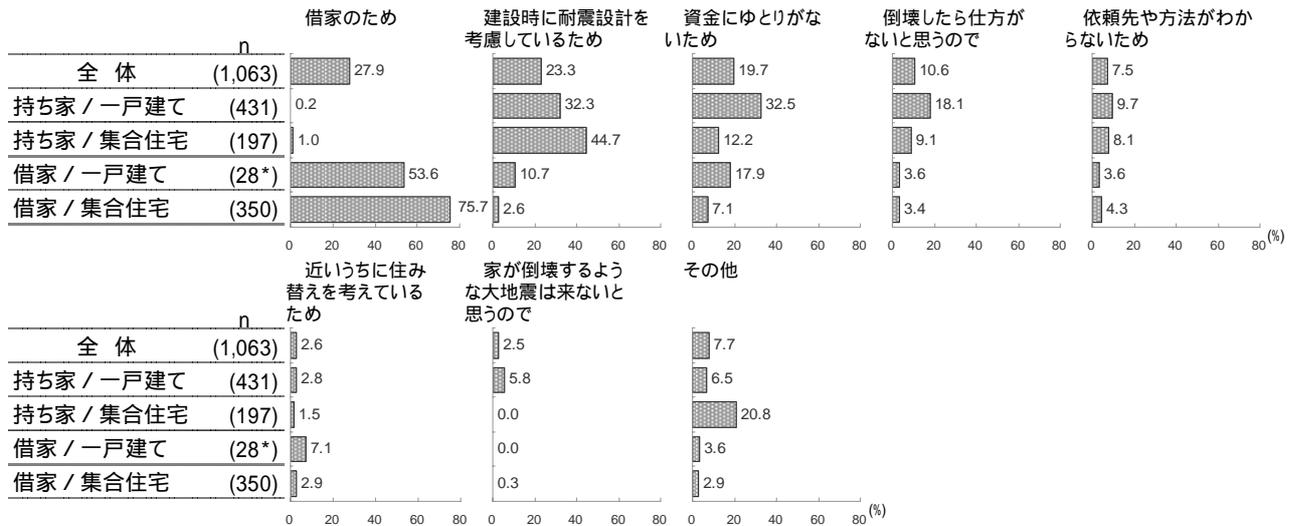
- ・ 全体で見ると、「借家のため」(27.9%) が3割近くと最も高く、次いで「建設時に耐震設計を考慮しているため」(23.3%)、「資金にゆとりがないため」(19.7%)、「倒壊したら仕方がないと思うので」(10.6%)、「依頼先や方法がわからないため」(7.5%)の順となっている。

[耐震診断や耐震改修工事を行っていない理由 - 性 / 年代別]



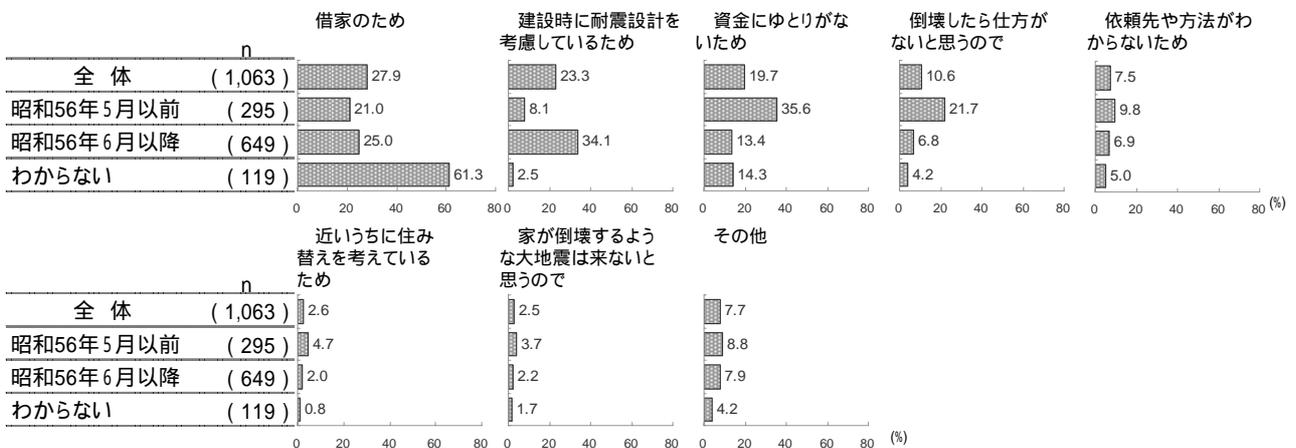
- ・性別にみると、「借家のため」では女性が男性より7ポイント近く高くなっており、「資金にゆとりがないため」では男性が女性より7ポイント近く高くなっている。
- ・性 / 年代別にみると、「借家のため」では男性30代、女性20代で6割前後と高く、女性では低い年代ほど割合が高い傾向にある。「建設時に耐震設計を考慮しているため」では男女とも40代、50代でほぼ3割前後と高く、「倒壊したら仕方がないと思うので」では男性50代以上、女性60代以上で2割近く高い傾向にある。

[耐震診断や耐震改修工事を行っていない理由 - 住居形態別]



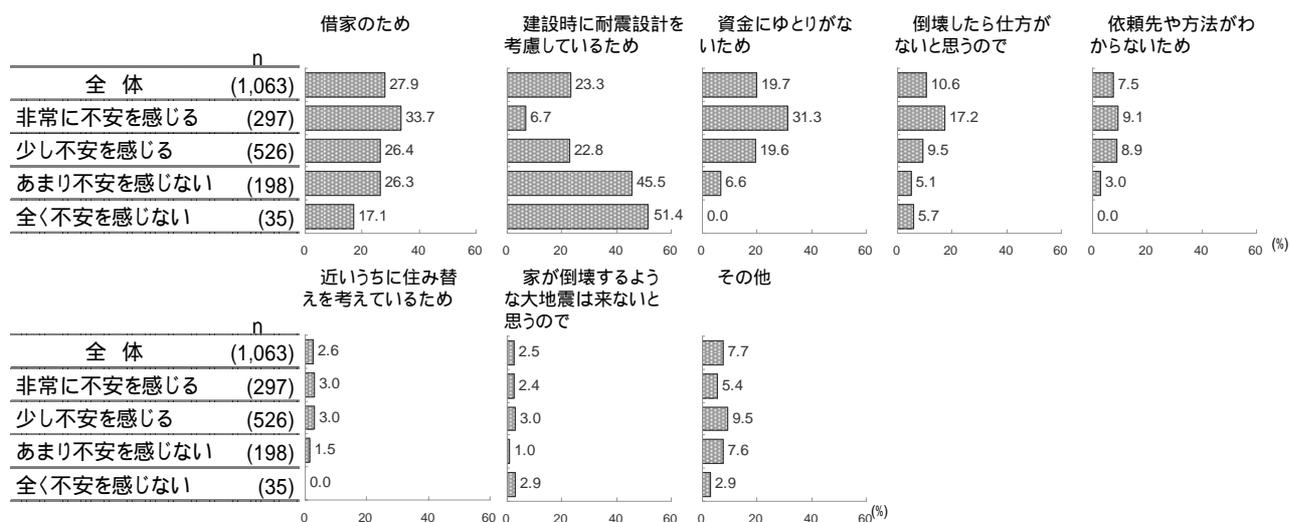
- ・ 住居形態別にみると、「建設時に耐震設計を考慮しているため」では持ち家の集合住宅で4割半ばと高く、持ち家の一戸建てでも3割を超えている。「資金にゆとりがないため」では持ち家の一戸建てで3割を超え高くなっている。

[耐震診断や耐震改修工事を行っていない理由 - 現住居の建築時期別]



- ・ 現住居の建築時期別にみると、「借家のため」では建築時期がわからない人で6割を超え高くなっている。「建設時に耐震設計を考慮しているため」では昭和56年6月以降の新耐震基準による建物に住んでいる人で3割半ばとなっている。「資金にゆとりがないため」では昭和56年5月以前の耐震基準以前の建物に住んでいる人で3割半ばを超え高くなっている。

[耐震診断や耐震改修工事を行っていない理由 - 大地震発生時の現住居倒壊に対する不安感別]



- 大地震発生時の現住居倒壊に対する不安感別にみると、「借家のため」では非常に不安を感じる人で3割半ば近く、「建設時に耐震設計を考慮しているため」では全く不安を感じない人でほぼ5割を超え、あまり不安を感じない人で5割近くとなっている。「資金にゆとりがないため」では非常に不安を感じる人で3割を超えている。

(6) 耐震診断や耐震改修工事の費用の一部助成や有利子融資制度の認知

(全員の方に)

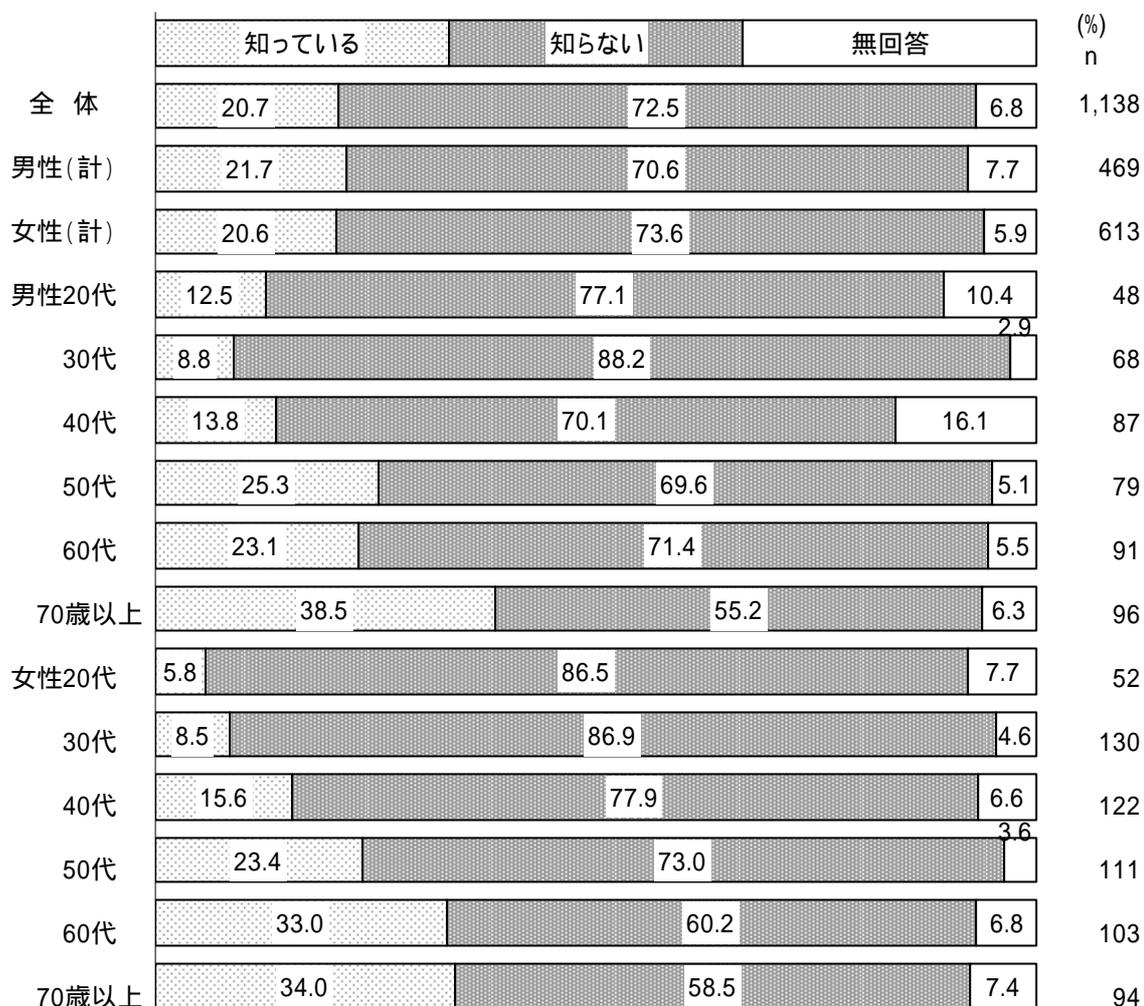
問6. 大田区では災害に強いまちづくりを進めるため、住宅などの耐震診断費用や改修工事費用の一部助成や有利子融資制度を設けています。あなたはこの制度をご存知ですか。

(1つだけ)



- ・ 全体でみると、「知っている」(20.7%)がほぼ2割、「知らない」(72.5%)が7割を超えている。

[耐震診断や耐震改修工事の費用の一部助成や有利子融資制度の認知度 - 性/年代別]



- ・ 性別にみると、男女間で大きな差はみられない。
- ・ 性/年代別にみると、「知っている」では男女とも高い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性70歳以上で4割近くとなっている。

[耐震診断や耐震改修工事の費用の一部助成や有利子融資制度の認知度 - 住居形態別]

	知っている	知らない	無回答	(%)	n
全 体	20.7	72.5	6.8		1,138
持ち家 / 一戸建て	28.6	65.5	5.9		472
持ち家 / 集合住宅	21.5	71.7	6.8		219
借家 / 一戸建て	31.0	62.1	6.9		29*
借家 / 集合住宅	10.5	81.6	7.9		353

- ・ 住居形態別にみると、「知っている」は持ち家と借家の一戸建てで3割前後と、集合住宅と比べ高くなっている。